

材 料	採取容器	採取量	保存法	備考
血液	血液培養ボトル。化学療法中の患者は抗菌薬吸着用ボトル	5～10 ml	孵卵器 (35℃)	液体培地量の1／5～1／10を好気用および嫌気用ボトルに接種
髄液	滅菌試験管または嫌気性菌専用容器	1～10 ml	孵卵器 (35℃)	N.meningitidisは低温で死滅しやい血液培養ビンに入れてもよい
体液、穿刺 (胸水、腹水、関節液など)	嫌気性菌専用容器（嫌気ポーターなど）	5～10 ml	冷蔵庫 (4℃)	可能な限り、多量に採取する
膿、分泌液 (耳漏、皮膚、創部など)	嫌気性菌専用容器、輸送培地、滅菌試験管など	1～10 ml	冷蔵庫 (4℃)	乾燥を防ぎ、創部は深部より採取 N.gonorrhoeaeを検査する場合は、保存せず、直ちに提出
尿 (中間尿、導尿管膀胱穿刺尿)	滅菌試験管	5～10 ml	冷蔵庫 (4℃)	原則的には、早朝尿蓄尿の一部は不可
糞便	採便容器または輸送培地	拇指頭大 (3～5g)	室温 (15～20℃)	綿棒による採便はできるだけ避ける赤痢アメーバ疑いは、直ちに提出海外渡航者は、その旨明記
喀痰、BAL	喀痰採取容器、滅菌容器	2～5 ml	冷蔵庫 (4℃)	採取前に必ずうがいをし、口腔内を十分に清潔にしておく
咽頭粘液 (扁桃周囲膿瘍)	滅菌綿棒または輸送培地		冷蔵庫 (4℃)	乾燥を防ぎ、直ちに提出扁桃周囲膿瘍が疑われる場合は、嫌気性菌専用容器を用いる
カテーテル先端 (ドレーンも)	滅菌試験管または滅菌容器		冷蔵庫 (4℃)	乾燥を防ぎ、直ちに提出直ぐに提出が出来ない時は、プロスや滅菌生食水を少量入れておく
胆汁 P T C D胆汁	嫌気性菌専用容器、滅菌試験管	5～10 ml	冷蔵庫 (4℃)	Salmonella Typhi , S.Paratyphi A が検出されることがあるため注意